

事故発生リスク低減へ

簡単な軽度認知症検査

安全管理のEM・ケア提案

早朝、元気に出庫していった70代のタクシー運転者が夕方帰庫時には別人になっていた。車内から降りず、しばらくして車庫内を徘徊。帰庫点呼も入金業務も行わない。管理職が質すと自分が誰か、なぜここにいるか分からない。軽い認知症の症状だ。事故を起こさず帰庫できたことが奇跡だった。

事業用自動車の運転者不足が深刻になって、運転者の平均年齢は高くなり、タクシーでは60代、

70代が主力になっている。しかしその分、健康起因の事故のリスクも高まっている。

事業用自動車の安全管理と健康経営を推進するEM・ケア(井上忠代表取締役)は職業ドライバーの「簡易認知機能テスト」の受診を勧めている。

全国の交通事故件数はここ10年で半減したものの65歳以上の高齢ドライバーによる事故は倍増した。EM・ケアは事故のリスク低減と人材不足時代の高齢者活用を促すた



「認知機能テスト」のイメージ写真

めに事業者によるドライバーの健康チェックの重要性を訴えている。この中で軽度認知障害(MCI)の早期発見が事故の未然防止のひとつとして有効としている。

MCIは、愛媛大学大学院の三木哲郎教授によると「老化による正常な物忘れと認知症との間にMCIと呼ばれるグレーゾーンがある」という。

早期の発見、治療で病気と向き合い、今後の生活の備えや症状の改善が期待できるものもある。

EM・ケアはこのMCIの早期発見、予防のために簡易認知機能テスト「あたまたの健康チェック」を提案。専門家でなくとも10分程度のテストで精度97%のMCIを発見でき、早期の対処が可能になる。パソコン上での10分間の質問テストで作業記憶や短期記憶を総合的に判断して点数表示する。継続的なモニタリングであたまたの健康状態が把握できるシステムだ。

MCIや認知症が増加するのは生活習慣病の割合が高まる50代以上。認

知機能が低下している運転者を把握すれば、認知機能に起因する事故のリスクを回避できる。日頃の健康管理ツール、入社

時の検査などに活用が広がることに期待される。問い合わせ、☎03・5530・8327、06・6225・1310。